

学校通信 強い網

2015年6/7月号
新版 第74号
編集
駿台甲府高等学校
駿台甲府中学校
駿台甲府小学校

未来に向かって

小学校 校長 坂本 宏行

ICT教育推進に向けて

今年度、駿台甲府学園では、ICT推進室が新設されました。これはICT（情報通信技術）を活用した「これからの学校」と「未来の教室」を構想・立案するためです。

急速な情報化やグローバル化の進展に伴い、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しており、社会の変化に対応できる力を身につけることが重要です。子どもたちの発達段階にに応じて情報を活用できる能力の育成も同時に重要です。

現政府は、「二〇一〇年代には、二一世紀にふさわしい学校教育の実現に向けて、情報端末を児童・生徒一人一台を実現する」と発表しています。

ICTの特徴は、時間的な制約を超え、双方向性を有すること、カスタマイズが容易であると言われています。学校では子どもたちに解りやすい授業を実現すると共に課題を発見したり、問題解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）を実現する確かな学力を育成します。

アクティブ・ラーニングには、一つのテーマを分担して勉強し、結果を組み合わせることで全体の理解に繋げたり、教室と家庭での学びを入れ替え、教室では家庭で学んだ知識の定着を確認する「反転授業」などもあります。

また、このような教育を推進していくためには、教員のICT活用指導力の向上が不可欠です。教科の指導において効果的に活用する方法を取得しなければなりません。

二〇一五年度から、過疎化・少子化が進む人口過少地域の小規模校において、学校教育の質の維持向上を図るためにICTを活用し、遠隔地間における双方向型の協働学習や合同学習を実施する研究が開始されています。

それでは、具体的に各教科ではどのように活用すればよいのかを紹介すると、「本や文章を読んで考えたことを発表し、人との考え方や感じ方との違いに気付く」、「数量や図形についての感覚を豊かにする」、「図表やグラフなどを用いて、自分の考えを伝える」、「予想や仮説を発表し、観察・実験の結果について映像を使って共有する」、「新しく発見したことや不思議に思ったことなどを映像に収め、保存し蓄積できる」運動している動画を撮影し、

模範動作と比較し、レベルアップを図る」などでしょう。

本校が考えているタブレット端末は持ち運びが容易であるというメリットと実験や体験を通して手触りや匂いや音などの五感を伴わないデメリットを認識した上で補助教材として活用することです。

「なぜ、こうなるのか」を理詰めで考える（原理・原則の理解）こととそれを相手にわかるように表現できることで、思考力・判断力・表現力が評価される時代にも十分対応できると考えています。

タブレット導入が教育を変えるのではなく、ICT機器を活用し、我々子どもたちの思考力、判断力、想像力や表現力を伸ばすためにどんな授業を指すかを常に検証し、全教員で情報を共有していきます。

英語学習プログラムの改良

今年度、駿台甲府学園全体でグローバル教育の推進に取り組んでいます。

二〇二〇年度から新しい大学入試制度に変わります。また、文部科学省は「生徒の英語力向上推進プラン」を発表し、二〇一九年度から中学校三年生を対象に「読む・聞く・書く・話す」の四技能を測定する全国的な学力テストを新たに実施することが盛り込まれました。

駿高では、海外研修や一年間の短期留学、駿中では、English Centerの開設とオーストラリア研修など新たにこ

小学校でも、高校の英語科の指導・協力を得て、英語学習のプログラムを改良しました。グローバル化、大学入

試制度の改革などに対応でき、一二年間を見通したカリキュラムとしました。具体的には、低学年では、アルファベットに慣れ親しみ、英単語にも関心を高め、中学年では、Reading・Writing

の練習や文章に慣れ親しみ、高学年では、英語によるスピーチやプレゼンテーションを中心としたプログラムです。さらに、放課後の学童保育では、英語教室を全学年に新設しました。Ms. Kopetsch 先生の指導による少人数制であり、特に低学年には大人気です。

また、今年度より、任意の六年生を対象に英語への興味関心を高め、異文化体験をするための新たな取り組みとして「英語キャンプ」を実施します。

アメリカンカウンセラー（このプログラムのために全米各地で厳しい選考を経て、事前にトレーニングを行い、日本へ招致される大学生及び高校生）が、駿台甲府学園の清里高原ロッジで

二泊三日、キャンプ参加児童が常に英語を聞き・話す環境を実現し、活動をリードする役目を担います。そして交流により英語や文化の大切さを学びます。英語の生活を楽しみ、英語活動（英語の自己紹介・劇・歌など）や異文化体験（ダンスパーティー・キャンプファイヤーなど）をします。

異文化交流を通して、チャレンジング・スピリットや自ら考え行動する力発表する力を培ってくださることを大いに期待しています。

やんちゃいっしょな駿高生

第35回駿高祭

「Sundai amigo」

駿高祭担当 奥山 昭隆

去る6月11日・12日、第35回駿高祭が行われました。テーマは35回の「3(みい)」と「5(ご)」にかけて「駿台アミーゴ」に決定しました。2日目海外からのお客さまにテーマ

について説明(勿論英語ではありません)すると、

「[Lever]」

(私にはこ
う聞こえた)
と微笑んで

答えてくれ
ました。大変嬉しく、このテーマを提出し

てくれた2年G組に感謝します。35回だからこそそのテーマだったので。



このすばらしいテーマのもと、いつもよりも短時間で仕上げなければならなかったのですが、1日目のホールで文化ホールの吹奏楽部の

演奏からパワー全開で盛り上がりました。クラスパフォーマンスも出番前の舞台袖では緊張していましたが、精一杯の演技のあとは誰もが満足し、笑顔でした。十日間の準備期間にはいろんなことがあったのでしよう。でも、クラスの力は強くなったのではないのでしょうか。



2日目は前日夜からの雨で外での企画ができたかどうか心配でしたが、朝七時には多くの生徒が準備にきてくれました。その勢いが勝り、雨の影響もなくすべての企画が

予定通り実施されました。今後は、より多くの生徒がたくさん企画の発表に参加、見学できるように考えたいと思いました。今年度も駿高祭実行委員と生徒会とが中心となり、今回は4月に起きたネパール大地震の被災地への支援をという



ことで、募金活動を行いました。保護者にもご協力いただき大変感謝申し上げます。各企画からのたくさんの義捐金も集まりましたので、合わせて寄付させて

いただきます。ありがとうございました。

盛大に開催された駿美祭

駿美祭担当 高橋 典裕

6月19日、20日の金曜日、土曜日に駿美祭がおこなわれました。両日とも、好天に恵まれ、充実した2日間でした。

「平日は美デ科に居ます」のテーマのもと、各クラス、張り切って準備をしてきました。

今回は3人の教育実習生が全員美術教科だったこともあり、多岐にわたる、飾りつけや、大掛かりな作品制作に大いに力を発揮してくれました。大学で学んでいる技術を、生徒の目の前で、十二分に生かした取り組みは在校生も大変得るところが多かったようで、汗を流しながらも、笑顔を交えて準備に余念がありませんでした。クラスに溶け込んで、パフォーマンスにも加わってくれたり、実習生3名の八面六臂の活躍のおかげで、若さあふれる、明るい準備期間となりました。

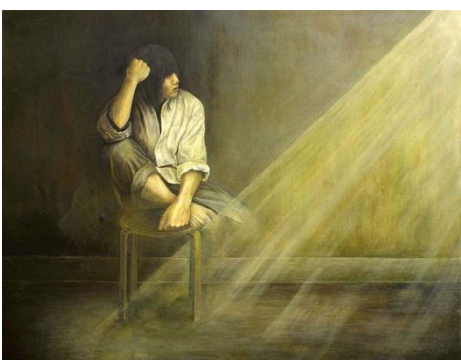
1年は「お化け屋敷」を催し、2年は「カフェ」3年は「タピオカドリンク」を提供した、模擬店では、お化け屋敷の前には列が途切れることなく、中からは悲鳴がたくさん聞こえてきて、大盛況でした。

2、3年生のくつろぎ空間では、ハワイアンムードあふれる店内や、メニューの豊富さに、来場してくださった方も、癒しのひと時を感じていただけたことと思います。毎回、ご尽力いただいている、PTAの模擬店では、枝豆や冷やしバイナップル、冷やしうどんなど、おなかを満たしてくれました、とても美味なものがふるまわれました。特にフランクフルトは、早々と消費され、売り切れ御免の状態でした。

「平日は美デ科に居ます」のテーマ通り、普段から作品制作などで、学校で、遅くまで取組み、「週末も」、最後の総仕上げのため、細かいところまで、入念に仕上げるため「美デ科に居る」土日にも登校して作り上げた学園祭となりました。校内の数々のデコレーションや生徒たちの作品群に、喜んでいただいた来場者の皆様に御礼を申し上げます。



1年生の創作劇



駿美祭コンクール最優秀作品

きみたちはHEROになれたか

第二十二回駿中祭

「BE HEROOS〜英雄となれ!〜」

6月21日(日)第22回駿中祭が行われました。市総体が終わってから一週間という短い準備期間でしたが、日頃の授業で作り上げた美術作品、書道作品、英作文、グループワークの発表などの展示、合唱部、吹奏楽部の発表、学年ごとに教員も一体となって練習した学年合唱、各クラスで知恵を絞って考え、練習したクラスパフォーマンスの発表と盛りだくさんの内容でした。駿中生の文化的な資質の高さ、発想の豊かさ、実行力を感じることの出来る学園祭だったと思います。

クラスパフォーマンス

最優秀賞 三年D組担任 新田真也

三年生ともなると、駿中祭における担任の出番はほとんどなく、自主的に動く生徒たちのおかげで、安心して日頃貯めてあった読書に勤しむことが出来ました。

もちろん、最初からすべてがうまくいくわけもなく、台本やダンス曲をめぐる意見の衝突、タイムオーバーとの戦いなど、様々な困難がありました。しかし、それらの困難を、担任の手を煩わせることなく乗り越え、文字通り自分たちの手でつかみ取った最優秀賞でした。そんな訳で、まったく存在感のなかった担任としては、(こ)だけの話ですが;)パフォーマンス



前の「円陣」に入れてもらえたことが、最優秀賞を取ったことよりも、「ちよつぷり」嬉しかったのでした。:

二年年優秀賞 D組担任 手塚美樹

2Dは、社会の授業で学んだ「大化の革新」をテーマにしたダンスを交えた劇を発表しました。「中臣鎌足が蹴鞠の会で中大兄皇子に接近し、蘇我氏討伐に向けて動き出す。朝鮮の使者を迎える場で:。」という、オリジナルストーリーでした。最初は、クラスがばらばらでしたが、意見を衝突させながら、我慢したり、譲り合ったりと、



徐々にクラスが一つになっていきま

一学年優秀賞 B組担任 原大介

「劇にする?ダンスにする?」活発な意見の交わり合いから、一年B組の駿中祭が始まりました。元気が売りの一年B組。元気が有り余って暴走する子もいて、リーダーを困らせる姿を見かけることもありましたが、「良い劇&ダンスを作りたい」、そんな気持ちで、最後まで一生懸命に練習し、本番でも一致団結することができました。駿中祭では生徒が自分たちの良さを発揮できました。積極性、豊かな発想力、協調性そしてリーダーシップ。この経験を忘れず、普段の生活においても自分たちの良さを発揮できるように頑張ってほしいと思います。

大盛況!公開授業・説明会

小学校副校長 内藤 真一

7月4日、駿小に入学を希望する園児・保護者向けに公開授業と説明会を行いました。

今回の説明会での目玉は「駿台の英語教育」と題して、小中高の英語について話したことです。プレゼンターは堀江先生と立澤心さん。心さんは駿小4期生で現在駿高の2年生。Bのクラブの部長として6月の駿高祭で英国人アーティスト、アナ・ゴンザレス・ノグチさんを招き、ワークショッ

プを開催しました。心さんは「駿小での英語はゲームなどを通して楽しく学べた。ネイティブの教師とふれあっていたので今回もアナさんをお願いすることに抵抗は少なかった。」と話してくれました。また、駿小時代に英語を教わったコペッチとも再会し、英語で近況を報告していました。堀江先生は「自分たちでやりたいことを考え、企画する。そのことを英語を用いてやり遂げる。これが駿台の英語教育の目指すところである。」とまとめました。参加された方のアンケートを見ても「(心さんの)英語の素晴らしさに驚きました。我が子にもあのようになってもいいから。」という感想が多くありました。



説明会のあとは、全学年の授業を公開しました。この公開授業は駿小の魅力

をぎゅっと詰め込んだものです。

まず、注目を集めたのは1年生の授業です。入学して3か月。子どもたちはどのくらい成長したのでしょうか。国語の授業では、皆おへそを先生に向けてきちんとイスに座り、授業を受けています。見ていた保護者からは「皆落ち着いている。幼稚園から小学校でこんなに成長するものなのか。」という感想が聞かれました。将棋の授業では対局を行いました。これも将棋を始めて3か月ということで皆さん驚いていました。英語は1年生と3年生が隣の教室で行っていたため、2年間の英語の進歩がよくわかっていただけだと思います。4年生の社会はタブレット端末と電子黒板を使っている。上手にタブレットを使いこなす姿に「すごい!」という感嘆の声が漏れていました。

全体を通して好評だったのは、児童が積極的に手を挙げて発言していたことと、児童から声をかけて園児・保護者を百人一首や顕微鏡観察に誘っていたこと。「子どもたちが素直に楽しくのびのびと学んでいる。」という感想をいただきました。

「駿小の授業は、教壇から教師が一方的にしやべる形式ではありません。子どもたちが能動的に参加する活発な授業をおこなっています。」と説明会などで話してきましたが、今回の公開授業で納得していただいたと思います。

最近になって「アクティブラーニング」という言葉が新聞などで見られるようになってきました。やっと世間が駿小の教育に追いついてきたのかなという印象です。

今後子どもたちの能動的な学びをたっぷり・ゆっくり行い、しっかりとした力を養成していきたいと考えています。

県中学総体に向けて

各部の抱負

男女ハンドボール部 吉田脩人・手塚美樹

女子部の市総体は甲府東中学校を相手に終始危なげない試合運びでした。後半には部員全員を出場させることができ、28対6というスコアで勝利をおさめることができました。男子部も城南中学校を相手に25対15で勝利をおさめることができました。男女でアベック優勝という結果で、昨年に続き優勝を持ち帰ることができました。7月に行われる県総体は、25・26日は塩山体育館、28日は小瀬体育館で行われます。男女ともに課題は山積みですが、「やさしさ・かしこさ・たくましさ」をもって大会まで、時間を有効に使い、男女とも関東大会出場を目指して、集中して日々練習に励んでいきたいと思えます。応援をよろしく願います。

男女テニス部 羽澤 健・中島朋子

最近テレビでスポーツ選手の抱負を聞いていると「楽しんでます」「笑顔でプレーしたいです」という言葉をよく聞きます。現代つっらしいと感じるのは私だけでしょいか？ そういう意味では駿中テニス部の選手たちはプレッシャーの中にいると思えます。それは、好成績を残してきた先輩に続けと、常に勝つことを求められているからです。そのような緊張感の中、彼ららしいプレーを心掛けてほしいと思います。

男女テニス部は小瀬テニスコートで7月25日(土)に団体戦、26日(日)に個人戦を行います。関東大会へ出場をめざしがんばります。応援よろしく願います。

男女卓球部 中込範彦・牧 和弘

男女卓球部は7月27日(月)に小瀬体育館で行われる団体戦に出場します。

甲府市総体では男子5位、女子準優勝となり県総体の出場権を得ました。県総体は男女ともに厳しいトーナメントの組み合わせとなりましたが、関東大会出場の可能性はあります。まず、初戦を突破すること。そのためには、チームの総合力を向上させる必要があります。「自分に限界はない」、その強い思いで練習に取り組むことが、試合での一球一球への集中力となります。三年生は最後の大会ですが、一人ひとりが技術・体力・精神力を向上させ、自信を持って試合に出場して欲しいと思えます。

男子バレーボール部 野倉英明

市総体を終え、その熱が冷めないうちに県総体へ向けた練習：など始められるはずもなく、部員たちは駿中祭で燃え、期末試験で燃え、その結果を面談で褒められ(場合によっては怒られ)、ようやく県総体を迎えます。限られた時間の中で質を重視した練習を心がけ、課題を一つでも多く克服して試合に臨みます。

陸上競技部 武川公貴

先日行われた市総体では、男子がリレーを含む6種目9人、女子では3種目3人が7月29・30日に山梨中銀スタジアムで行われる県総体へ出場します。

県総体では、各支部の強豪選手に臆することなく、全員が自己ベストを出せるように全力疾走してきます。一年生のリレーは市総体で優勝していますので、決勝進出を目標に頑張ってきます。温かいご声援をよろしく願います。

裏方としての関わり

高校・生徒会担当 小高 淳

毎年5月に行われる県高校総体。昨年は水泳部の顧問として参加し、競技役員をしながら生徒たちの頑張っている姿を見ていました。今年は、生徒会顧問になり、壮行会、前日準備、初日のテント番、そして閉会式と、昨年と違う『裏方』として総体に関わりました。

前日準備では、入場行進の帽子や翌日使う細々したもの準備し、テントを陸上部の生徒たちに手伝ってもらい、トラックに載せました。準備OKと思っていたところ、帰り際に明日使う長机とパイプいす20脚を用意してないことが発覚！もうほとんど生徒が帰宅していたので、どうしようかと思っていたところ、体育館にバドミントン部がまだ練習していました。明日試合で最終調整のところ、無理を言って手伝ってもらいました。本当に助かりました。バドミントン部の生徒のみなさん、ありがとうございました。

さて、初日。朝7時前に小瀬に着くと、もう陸上部の生徒たちの手によってテントはほとんど運ばれていました。本当は生徒会でやらなければならないのに…。何から何まで陸上部にやってもらってしまいました。ありがとうございます。

各校のテントが並んだ中銀スタジアム前。応援団がいたり、学校のマスコットがいたり、とても活気がありました。(来年はすんたくんも参加?)各競技の途中経過や結果が届き、どのテントでも一喜一憂していました。また、各校の生徒会も、生徒会誌を各テントに配り歩き、お互いの交流を深めました。

生徒会の生徒たちは、小瀬で行われている各競技会場に出かけて行き、応援をしました。今年度の生徒会はいろいろな競技の応援にこれまで以上に参加する予定です。今回の総体はその第1回目ということです。

中銀スタジアムでは、陸上部が大活躍。男女とも100mの準決勝、決勝はすごいレースを見ることができました。また、武道館では剣道と空手。テニスコートでも熱戦が繰りひろげられました。男子テニスの決勝の相手は山梨学院。なんとテントは隣同士。あちらのテントに入ってくる情報が聞えたりして、何となく気まずい雰囲気。そんな中、決着がついたのは18時近くでした。残念ながら負けてしまいました。生徒会の生徒たちも最後まで応援していました。

最終日の閉会式にも生徒会は参加し、駿台甲府高校を代表して男子5位の賞状、女子3位の賞状と盾を受け取ってきました。これで3日間の県総体が終わりました。

生徒会ではその後、サッカーのインターハイ予選やバスケの試合にも応援に出かけに行きました。サッカーの試合では前半の4点ビハインドを後半4点取り返すと言う、あまり見られないのでは？という試合を応援しました。(欲しくもPK戦で負けてしまいました。)

さあ、次は高校野球です。今年度は、生徒会用のポロシャツを作成したので、それを着用して応援に参加する予定です。

生徒会は『裏方』としてしか関わられません。しかし、選手たちが最大限の力が発揮できるように、できる限りのバックアップと応援をしていきます。選手のみなさん、自分たちの力を信じ、精一杯頑張ってください。